花は咲く

3.11を忘れない落合恵子in鈴鹿
実行委員会ニュース

No.12

2014年8月10日発行
発行責任者：事務局　萩森・橋詰

この町を愛し、この町に生きる

昨年１２月からスタートした「3･11を忘れない落合恵子in鈴鹿実行委員会」。７月６日の講演会は大成功♪本当にありがとうございました。

８月６日に実行委員会の皆の思いをのせて、鈴鹿里山学院さんに収益金15万円ど絵本や果物等をプレゼントしてきました。そして、福島県のひらた中央病院さんに10万６千円を寄付させて頂きました。

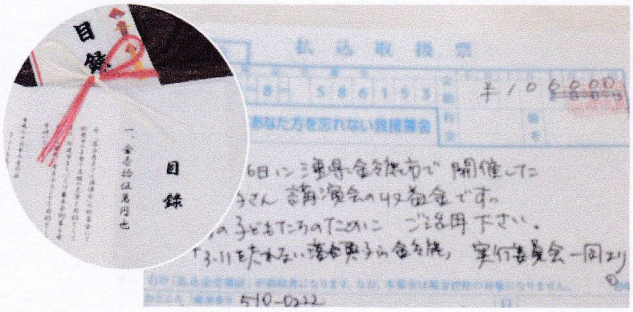
「麦」の皆さんの思いから集まった多様なアクティブシティズン・28名の繋がり。これからもこの繋がりを大切にし、「鈴鹿市まちづくり基本条例」の理念を忘れず、3･11を忘れず、落合恵子さんのメッセージを忘れず、一人ひとりが行動していきましょう。“それは「いのち」から、いつだってそれは「ひとり」から始まる!!”

皆さん、お元気で。　（福本悦子）

最後の実行委員会(7/19)を終えて

実行委員会楽しかったですね。講演会の成功がさらにその上に「確信」をくれました。またきっと再会しましょう。今度は若者や若いお母さん、お父さんを加えて集まりましょう。

私たちの「確信」と「勇気」は不滅です。この町スズカに生き、住み、学び、集い、この町を愛して進んでいきましょうよ！　（萩森繁樹）



里山学院を初めて訪ねました

８月６日、落合実行委員会のみなさんと一緒に鈴鹿市上箕田にある「鈴鹿里山学院」を訪ねました。講演会の収益金を贈呈するためです。対応してくださった榎本院長は、子どもが大好きな校長先生、と言った風情（ふぜい）の紳士です。

三重県内の児童養護施設は１２か所あり、全県一区。児童相談所を通して送られてくる。うちには２歳から18歳まで現在28人が生活している。鈴鹿、北勢の子が多い。かつては親のない子が対象だったが、今では親はいるがさまざまな理由で育児に困難があり、預けられる子がほとんど。３～４年の間に親の養育環境が改善し、引き取られていくことが多い。

国の補助金と県の補助金だけでやっている。職員は22人、夜勤もあり、続かない人もいる。入所児童は1000人に１．５人と少なく、ほとんどの人はこうした施設があることさえ知らない。みなさんのように支援していただくことはありがたい。ホールには20人ぐらいの子どもたちが、お行儀よく並んで座って、私たちを待ってくれていました。つらい過去や傷ついた心を抱えているはずなのに、みんな表情は明るい。木の香りのする広々した施設、若くて親切な職員に囲まれて、少なくとも今は幸せな生活を送っているに違いないことを確信しました。　（吉田一男）